

2005年から毎年開催してまいりました当マスタークラスは10周年を迎えることができました。これまでの皆様のお力添えに深く感謝申し上げます。今後も人々に正しい指針や希望を与える機会であり続け、眞の芸術家をめざす人が一人でも多く育つよう努めてまいります。どうぞ宜しくお願ひいたします。

カヤレイ・ヴァイオリン・アカデミー東京事務所 細野京子

聴講者の声より

受講生が最初に演奏した時に十分「いい音しているなあ。。。」と思っていましたが、カヤレイ先生の「指導」かはいると、みるとまるで音が変わるのであります。私は45歳からバイオリンを手にして、趣味でレッスンに通っているのですが、今回ほど「バイオリンの音に感動したこと」はいまだかつてありません。バイオリンの演奏技術ももちろんのですが、「聴く耳」が大切なのですね。今まで自分がいかに「適当に」音を聴いていたのか、と恥ずかしくなりました。  
— 一般聴講者

このマスタークラスを体験すると、芸術的な音を作りだすことが音楽にとっていかに大切であるか、音色の創造こそ音楽演奏の根幹であると思わずにはいられない。  
レッスンのほとんどが「音を作ること」「音色の探求」に当てられ、その音色の探求原理や手順を明らかにしてくれる。  
— 一般聴講者

手だけで動かして音から、心と一体になった音へ。  
時代様式を考えないで出している音から、その時代にあった音へ。  
体を使わないで出している音から、体と一体になった音へ。  
集中力のない音から、集中している音へ。  
先生は瞬時に何か足りないからこの音なのか見抜き、  
魔法のように全員がどこかしら変化してレッスンが終わる…  
— 弦楽器指導者

カヤレイ氏はどのようなパッセージでも的確な練習方法を躊躇なく繰り出し、実際その方法で練習すると見事に音楽が生まれてくるのだ。これを見ると練習方法とは単独に存在するのではなく、技術と音楽への深い理解から編み出されるものと気がつかれる。  
このマスタークラスはヴァイオリン関係者ならず音楽を愛するすべての方にお勧めです。  
— 一般聴講者

カヤレイ氏のレッスンの間に生徒さんの音がみるみる変わっていくことに驚きました。  
どうやったらあのようになるのか知りたくて、カヤレイ東京クラスに申込みました。  
— 弦楽器指導者

ハビブ・カヤレイ  
Habib Kayaleh

才氣あふれる優れた教育者、演奏家として名高い氏は、エリ・ベンヤミン、ガブリエラ・レンゲル、ルネ・ベネデッティ、ユディ・メニューインの各氏に師事し、パリ・コンセルバトワールを首席で卒業しました。1989年イス、ジュネーブ近郊のクランにカヤレイ・ヴァイオリン・アカデミーを設立し、様々な国から数多くの才能ある学生を受け入れ、優れたコンサートヴァイオリニストを育てています。氏はとりわけ「音の教育者」とも称され、これまで世界各地でマスタークラスを行い、ナタン・ミルシテイン、ヴィクトール・ピカイゼン、イーゴリ・オイストラフ、イリーナ・バチコヴァ、ドロシー・ディレイなど著名な演奏家や教育者から高い評価と信頼を得てきました。

日本には2005年より毎年来日し、専門的かつ論理的な技術の指導はもとより、音楽家としての使命にも言及し、これまで延べ200人以上の若い音楽家たちに希望と指針を与えてきました。氏のパーソナリティともいいくべき欧洲の伝統に裏打ちされた豊かな音色は、通常のレッスンの概念や楽器の枠を超えて芸術的で深い感銘を受けるとして賞賛を浴びています。

メディアにも度々取り上げられ、弦楽器専門誌「サラサーテ」ではボウイングやビブラートなどの特集で毎回好評を得ています。

Kayaleh Music Center  
HP: <http://www.kayaleh-music-center.com>

カヤレイ・ヴァイオリン・アカデミー東京事務所

2005年カヤレイ・ヴァイオリン・アカデミーの優れた独自のヴァイオリン教育の普及拠点となり、両国の文化交流の一助となることを目的に発足しました。以来毎年カヤレイ氏の日本でのマスタークラスの開催と留学生のサポートを行っています。加えて2012年よりカヤレイ・ミュージック・センターとの連携のもとに、その理念に基づき日本で学ぶ拠点としてKVA東京クラス・名古屋クラスを開設し、細野京子(東京芸術大学修士課程修了、KVA留学)を中心に丁寧かつ実践的な指導を行っています。

The cover of Saratate Vol.66 magazine features a large violin on the right side. The title 'サラサーテ' is at the top in a stylized font. Below it, there are several columns of text and small images related to violin techniques and interviews. The text includes '弦楽器と音楽を愛するすべての人へ' (To all who love string instruments and music), '固定ド・移動ド・弦楽器の“良い音程”' (Fixed Do -移動ド- String Instruments' "Good Intonation"), '倍音を聴く・クラルテットの音程' (Listening to overtones - Clarinet Quartet Intonation), 'アンダーワン・タメステイ' (Antoine Taillestei), and 'ヴァイオラの世界' (The World of the Viola). There are also sections for 'Artist Close-up' and 'スピッカート' (Spiccato).

弦楽器マガジン「サラサーテ」にはハビブ・カヤレイ氏によるヴァイオリン奏法についてのインタビューが掲載されています。最新号(2015/10 Vol.66)ではスピッカートについて『弓の“自然に飛ぶ力”をコントロールする』が掲載されました。

本雑誌は大きな書店、楽器店、Amazonなどで購入できます。この機会に是非お求めいただき、奏法の研究にお役立てください。

